

平成 24 年 4 月 20 日

公立大学法人大阪市立大学
医学部・附属病院運営本部庶務課
TEL : 06-6645-2770

大阪市立大学医学部附属病院における医療事故の発生について

大阪市立大学医学部附属病院において、平成 24 年 4 月 10 日（火）午後 10 時頃、入院患者（45 歳・女性）が、低酸素脳症になる医療事故が発生しました。

当該患者は、白血病の治療のため末梢血幹細胞移植を行った後に、合併症を併発して全身状態が悪化しており、急激に呼吸状態が低下したため、肺に酸素を送るために蘇生用バッグを使用しましたが、酸素を十分送ることができませんでした。その原因としては、蘇生用バッグの組み立て方が誤っていたためと考えられます。

呼吸状態が改善しないため、別の蘇生バッグを用いたところ酸素が送れるようになりましたが、現在も懸命に治療を続けています。

患者さま、ご家族、関係者ならびに信頼を寄せていただいている市民の皆さまに今回のような事態を招きましたことを深くお詫び申し上げます。

本院といたしましては、すぐに院内のすべての蘇生用バッグにつきまして、緊急点検を実施し、他に異常が無いことを確認しました。また今後、外部委員を含めた医療事故調査委員会において原因等を究明し、このような事故を繰り返さないよう、再発防止策を早急に作成、実施し、皆さまの信頼回復に努めてまいります。

* 末梢血幹細胞移植: 血液中の、血液の元になる細胞を集めて移植する方法。

* 蘇生用バッグ : 緊急時に手動で肺に酸素を送り込む医療器具。